

貯 法：室温保存
使用期限：5年（外箱に表示）

涙液分泌機能検査用 シルメル試験紙

Sterilized

Tear Production Measuring Strips (Scaled)

シルメル試験紙は、涙液分泌機能のスクリーニングテストとして、単位時間内の涙液分泌速度を測定し、角・結膜の病変が涙液の減少によるものかどうかを知るために行われてきたシルマー試験第1法・第2法に供する試験紙です。Whatman No.41ろ紙を使用し、試験紙に直接目盛をプリントし、滅菌処理した利便性の高い製品です。

＜シルメル試験紙の取り出し方＞

透明フィルムを上方へはがし、中の試験紙の下端（35の目盛のある方）を滅菌したピンセットでつまみ、1枚を抜き取る。同様にしてもう1枚を取り出す。目盛数字のある側をそれぞれ右眼、左眼用として使用することにより誤認が防げる。

参 考

【Schirmer試験第1法】

＜目 的＞

この試験は、反射分泌と基礎分泌の和、すなわち、全分泌を測定しようとするものである。

＜操作方法＞

検査前には、「あなたの目の涙が十分に出るかどうかを測るテストで、簡単で痛くありません。」といった言葉をかけ、患者の恐怖心を取り除く。試験前の洗眼や点眼薬の使用も規制する。

患者を明るすぎない部屋で光源を直視できない場所に座らせる。シルメル試験紙を取り出し、先端（5の目盛のある方で先端が丸くなっている）の折り線プレスのところで折り曲げて、両眼とも外1/3の下眼瞼にひっかけるようにして先端部を結膜囊に入れる。試験紙が角膜にふれないようにやや上目使いになる目標を教えて、瞬目自由の開瞼状態をとらせる。

5分後に試験紙を取り除き、試験紙のぬれている長さをプリントされた目盛から読み取る。5分以内に全長がぬれてしまう場合は、その時間を記録する。

＜判 定＞

正常値：10～30 mm（涙の分泌は正常か、あるいは偽流涙症で基礎分泌が低くても反射性分泌が代償している可能性あり。）

異常値：5 mm以下（分泌減少）

＜禁 忌＞

とくにない。

【Schirmer試験第2法】

＜目 的＞

反射性分泌がおこるかどうかを鼻粘膜を刺激することにより確かめる。

＜操作方法＞

2、3滴の局所麻酔剤を点眼し、反応性充血がおさまり麻酔が完全になったことを確かめてから部屋を暗くし第1法と同様にシルメル試験紙を結膜囊にセットし、乾いた綿棒で無麻酔の鼻粘膜をこすり、2分後の試験紙のぬれを測定する。

＜判 定＞

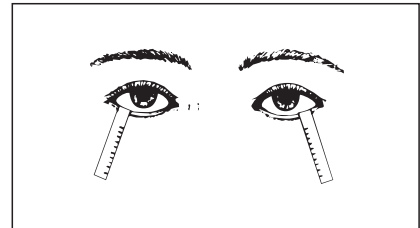
2分間のぬれが15 mm以下のときは反射性分泌異常を示している。

＜禁 忌＞

鼻粘膜に病変のある者や、局所麻酔剤にアレルギー症状を示す者。

【コンタクトレンズ】

コンタクトレンズ装用者の涙液分泌の適正を調べるのにも用いられる。



（長嶋原図より改変）

【包 装】

100セット（100×2 Strips）

【主要文献】1)長嶋孝次：医科学大辞典（講談社）23, 208(1982)

2)大鳥利文：眼科 Mook（金原出版）3, 128～136(1978)

3)山口達夫：眼科 32(7), 697～703(1990)

※※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】 あゆみ製薬株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目12番15号

TEL：0120-369-873

＜受付時間＞ 9：00～17：30（土・日・祝日・当社休日を除く）

製造販売元

※※



あゆみ製薬株式会社
東京都中央区銀座四丁目12番15号